

この電子化された添付文書をよく読んでから使用してください。

リウマチ因子キット
イアトロRFⅡ
(ラテックス免疫比濁法)

●全般的な注意

1. 本品は体外診断用医薬品です。それ以外の目的には使用できません。
2. 診断・治療効果の判定は、本法を含めて関連する他の検査や臨床症状に基づき医師が総合的に判断してください。
3. 添付文書以外の使用方法については保証をいたしません。
4. 使用する機器の添付文書及び取扱説明書をよく読んでから使用してください。
5. R-2試薬には、ヒト由来成分が含まれており、感染の危険がありますので感染性のあるものとして取扱ってください。

●形状・構造等（キットの構成）

1. R-1
1) トリス緩衝液
2. R-2
1) 変性ヒト免疫グロブリンG感作ラテックス
(変性ヒトIgG感作ラテックス)

●使用目的

血清又は血漿中のリウマチ因子の測定

●測定原理

検体中のリウマチ因子（RF）は、変性ヒト免疫グロブリンG（IgG）を感作したラテックスと反応し、凝集塊を形成します。この凝集塊を光学的に測定し、リウマチ因子濃度を求めます。

●操作上の注意

1. 測定試料の性質、採取法
1) 検体には血清、ヘパリン加血漿、EDTA加血漿又はクエン酸加血漿を用います。
 - 2) 検体及び標準品等を分注するときは、泡立てないように注意してください。
 - 3) 不溶物を含む検体は遠心分離又は濾過により除去した後使用してください。
 - 4) 測定範囲をこえた高濃度検体は、生理食塩水で希釈し再測定してください。
 - 5) 検体はなるべく新鮮なものを使用してください。やむを得ず保存をする場合は凍結保存（-70℃以下）をしてください。¹⁾²⁾
 - 6) 検体は常温（15～25℃）に戻して使用してください。
2. 妨害物質・妨害薬剤
ビリルビンは50mg/dLまで、乳びは5,000ホルマジン濁度まで、溶血はヘモグロビン濃度として500mg/dLまで影響ありませんでした。

●用法・用量（操作方法）

操作法は自動分析装置により異なります。詳細な操作法は各装置毎にパラメータを用意してありますのでご用命ください。

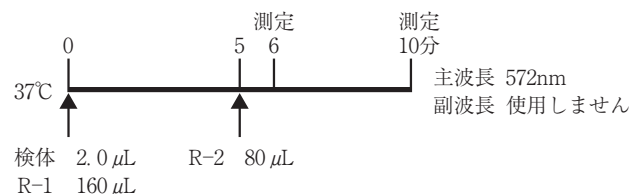
[東芝 TBA-120FR 自動分析装置の例]

1. 試薬の調製方法
1) R-1：そのまま使用します。
- 2) R-2：そのまま使用します。
- 3) 標準品：使用説明書に従って調製します。

2. 必要な器具・器材・試薬等

- 1) 標準品（別売品）
RF標準品セットⅡ（ST-917XS）

3. 測定（操作）法



2.0μLの検体に160μLのR-1を加えて37℃で5分間加温した後、80μLのR-2を加えます。37℃で加温しながら1分後、及び5分後に波長572nmで吸光度を測定します。同様に標準品を用いて操作したときの吸光度と対比し、検体中のリウマチ因子濃度を求めます。

●測定結果の判定法

1. ガイドライン
リウマトイド因子標準化のガイドライン³⁾
リウマトイド因子の標準化カットオフ値を15 IU/mLとする。
2. 参考基準範囲 15 IU/mL以下⁴⁾
基準範囲は種々の条件下、各検査室により変動する可能性がありますので、各施設にて適した値を設定してください。
3. 判定上の注意
1) 検体によっては、まれに検体中の目的成分以外との反応や妨害反応を生じる場合があります。測定値や測定結果に疑問がある場合は、再検査や希釈再検査により確認してください。
- 2) 非常に高濃度の検体については低値を示す可能性がありますので注意してください。
- 3) 測定上限以上の高濃度検体については、キャリーオーバーにより次検体以降の測定値に影響を与える可能性がありますので注意してください。
- 4) 採血管については、分離剤等が測定値に影響を与える場合がありますので注意してください。
- 5) 診断・治療効果の判定は、本法を含めて関連する他の検査や臨床症状に基づき医師が総合的に判断してください。

●性能

1. 性能
弊社の品質管理基準に基づいた値です。
1) 感度
生理食塩水と5 IU/mLの標準品をそれぞれ10回同時測定するとき、吸光度のMEAN±2S.D.は重なりません。
 - 2) 正確性
既知濃度の管理血清を測定するとき、既知濃度±15%以内です。
 - 3) 同時再現性
管理血清を5回同時測定するとき、C.V.は10%以下です。
 - 4) 測定範囲
5～500 IU/mL（東芝 TBA-120FR 自動分析装置使用）
2. 相関性試験成績
本法と従来法との相関は、
血清を試料とした場合
n=116、r=0.980、y=0.991x-7.702 でした。（y：本法）
血清と血漿との相関は、
n=120、r=1.000、y=0.981x-0.531 でした。（y：血漿）
3. 校正用基準物質
WHO 1 s t 1 9 7 0

●使用上又は取扱い上の注意

1. 取扱い上（危険防止）の注意
1) 検体は、HIV、HBV、HCV等の感染の恐れがあるものとして取扱ってください。
- 2) 検体については、乳び等の濁りは反応に影響ありませんが、ゴミ、カビ、細菌類、洗剤等の混入は絶対に避けてください。

- 3) 検査にあたっては、感染の危険を避けるため使い捨て手袋を着用し、口でのピペティングは行わないでください。
2. 使用上の注意
 - 1) 試薬は貯蔵方法に従って保存し、使用期限を過ぎた試薬は使用しないでください。
 - 2) 凍結した試薬は使用しないでください。
 - 3) ロットの異なる試薬は混合しないでください。又、検量線作成と検体測定は必ず同一条件で行ってください。
 - 4) 試薬ロット変更時には必ずRF標準品セットII (ST-917XS) で検量線を再作成してください。
 - 5) 使い残りの試薬の混合は避けてください（汚染や試薬の劣化をきたすことがあります）。
 - 6) 測定終了後は、蓋をして貯蔵方法に従って保存してください。
 - 7) R-2（ラテックス試薬）は、泡立てないように混和してから装置にセットしてください。
 - 8) ゴミなどが試薬及びセルに混入しないように留意してください。
 3. 廃棄上の注意
 - 1) 検体、検査に使用した器具類及び廃液は、次亜塩素酸ナトリウム（有効塩素濃度 1,000 ppm、1 時間以上浸漬）、グルタールアルデヒド溶液（2%、1 時間以上浸漬）等での消毒又はオートクレープ処理（121℃、20分以上）を行ってください。
 - 2) 試薬、検査に使用した器具類及び廃液を廃棄する場合は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、水質汚濁防止法等に従って、廃棄してください。
 - 3) 容器等は他の目的に転用しないでください。

●貯蔵方法、有効期間

1. 貯蔵方法 2～10℃
2. 有効期間 1年
使用期限は容器ラベルや外箱ラベルに記載してあります。

●包装単位

製品番号	包装単位
TBA-91B4	R-1 52mL×2
	R-2 26mL×2

●主要文献

- 1) 小井望総監修：検査診断ハンドブック，1 版，協和企画通信：414-415，1985.
- 2) 河合 忠編著：基準値と異常値の間－その判定と対策，第 6 版，中外医学社：224-226，2006.
- 3) 日本リウマチ学会：リウマトイド因子標準化のガイドライン（日本臨床検査標準協議会認証），2011
- 4) 社内資料
- 5) 東 威：リウマチ因子．日本臨床，535：211-213,1985.

*●問い合わせ先

PHC株式会社 インフォメーション担当
TEL：03-6865-2500
E-mail: medi-ho-service@gg.phchd.com

*●製造販売業者の氏名又は名称及び住所

PHC株式会社
東京都千代田区有楽町1-13-2